

(4) ②様式第4号-2 (報告書)

※文字のフォント、大きさは Meiryo UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。

※写真は、進行プログラムに沿って適宜、右ページに簡単な説明文を添えて貼り付けてください。

※必ず A3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

NITS・教職大学院等	実施機関名・連携機関名 横浜国立大学・横浜市教育委員会
コラボ研修プログラム	事業名： NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業
支援事業報告書	研修等名：【NITS・横浜国立大学コラボ研修】 NITS・横浜国立大学コラボ研修 VUCA の時代を乗り切るための副校長研修 ーデー タ×理論×対話ー 開催日時：令和 4 年 11 月 11 日 10 時～12 時、令和 4 年 12 月 15 日 15 時～16 時 45 分 令和 5 年 1 月 27 日 15 時～16 時 45 分 開催場所：横浜市教育委員会花咲研修所（神奈川県横浜市西区花咲町 6 丁目 1 4 5） 参加人数（総数）と参加者の属性：（129 人）副校長 129 人

内容： ※全体発表の内容をテープ起こしするなど、具体的に記載してください。研修等の様子は、写真を右に貼り付けてください。

本研修は、未来の予測が難しい VUCA（変動性、不可実性、複雑性、曖昧性）時代において、副校長としてどのように学んでいったらいいのか、データや理論、先輩教師の経験談をもとに、対話を通して考えていく参加型の研修です。

全 3 回のシリーズで、初回は「キャリアと成長」をテーマに、副校長としてのこれまで仕事を振り返りながら、今後のキャリアを考えました。2 回目は「カリキュラムマネジメント」をテーマに、教育課程の推進、それを実現するために組織マネジメントを実現するために、副校長として何ができるのか考えました。3 回目は「人材育成と学校組織づくり」がテーマに、これからの学校組織をどのように構築していくのか、副校長として何ができるのか考えました。各回は、大きく「データと理論から考える」「先輩教師のキャリアから考える」「対話」で構成されていて、「データと理論から考える」では、調査研究で得られた知見（副校長の仕事の実態・経験学習の傾向・カリキュラムマネジメントと学校組織の関係、など）について学び、ツールを用いて自己の振り返りを行います。「先輩教師のキャリアから考える」では、先輩副校長の経験談を聴きます。「対話」では、上記の 2 つについて、参加者で対話を行います。「データと理論から考える」「先輩教師のキャリアから考える」でも対話を行います、「対話」では、それらを踏まえて、副校長として今後どのように仕事を行うのか、お互いの考えを共有します。研修では、このような対話によって、副校長同士のネットワークづくりも促しています。

成果： ※参加者の声など客観的な情報・データとともに記入して下さい。

研修の終了後のアンケートについて、満足度（質問項目「この研修に満足している。」5 件法）は第 1 回が 4.39、第 2 回が 4.40、第 3 回 4.33 となり、概ね満足できるものであったと考えられます。「学んだこと・得たこと」に関する自由記述として「自身の強みや弱みを俯瞰できた。また、同じ立場の副校長と会話を重ねることで自分が現在の職場でどんなことをできるのか、していかなければならないのかについて考えることができた」など、研修が副校長の仕事の俯瞰し、今後を考えるきっかけになったことがうかがえます。

アイデアや工夫したこと： ※3～5 つ程度の箇条書きしてください。

- ・Zoom によるハイブリッド開催：多忙を極める副校長先生が参加しやすいように遠隔から参加出来るようにしました。ブレイクアウトルームを用いることにより、遠隔参加でも対話が行えるようになっています。
- ・調査データを活用したツールの開発：自身の経験を振り返りを支援し、対話が円滑になるように、レーダーチャートを用いた診断ツールを開発しました。
- ・データ・理論と経験談の組み合わせ：参加者は会の中で理論と実践の往還を意識しながら学べるようになっています。

<写真・図など> ※会場の熱気や規模がわかる写真、参加者の表情がわかる写真（寄って撮影またはトリミング）を撮影してください。

会場の様子



対話



全体共有



ツール：レーダーチャート



経験談



Zoom 配信の様子

